

## EBM 委員会特別企画

2. 論文執筆のガイドラインの世界的動向：  
ICMJE Recommendations から EQUATOR Network へなかやま たけお  
中山 健夫

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野

1991年の根拠に基づく医療（EBM）の誕生を契機に、人間（集団）を対象とする科学である疫学とその手法を用いた臨床研究の意義が広く認識されるようになった。相前後して学術情報の質・透明性の向上への意識が高まり、国際医学雑誌編集者会議（International Committee of Medical Journal Editors：ICMJE）、世界医学雑誌編集者協会（World Association of Medical Editors：WAME）の活動も発展した。各種研究の執筆指針は、ランダム化比較試験を対象とする CONSORT 声明（1996年）に始まり、近年、EQUATOR network として、様々な研究デザインを対象に整備が進んでいる。

これらは、著者・共著者、査読者、編集者の協働作業である論文 publication の過程をより良いものとする健全で建設的な学術コミュニケーションのツールであり、その理解と活用には、疫学や臨床研究の知識が基盤となる。国内でも2008年に日本医学雑誌編集者会議（Japanese Association of Medical Journal Editors：JAMJE）が発足し、日本医学会所属の学会を中心に啓発活動を行っている。

本講演ではこれらの現状と展望を概観する。

## 参考文献：

臨床研究と疫学研究のための国際ルール集（ライフサイエンス出版）Part1・Part2  
トムラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド（シナジー）

## 略歴

1987年	東京医科歯科大学医学部卒業	2016年-現在	同専攻長・医学研究科副研究科長、 日本医学雑誌編集者会議委員
1987-1989年	東京厚生年金病院（現 JACHO 東京メディカルセンター） 内科研修		
1989-1999年	東京医科歯科大学難治疾患研究所疫学部門 助手		
1998-1999年	米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校フェロー		
1999-2000年	国立がんセンター研究所がん情報研究部 室長		
2000-2006年	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻助教授		
2006-現在	同教授（健康情報学）		
2010-2016年	同副専攻長		